

一 般 演 題 抄 録

15. 当教室における腹圧性尿失禁に対するTVT (Tension-free Vaginal Tape) スリング術の 治療成績

山本 豊 松本成史* 大西規夫** 杉山高秀** 栗田 孝**

泉大津市立病院泌尿器科 *近畿大学堺病院泌尿器科 **近畿大学医学部泌尿器科学教室

目的 一般に女性の腹圧性尿失禁のうち、タイプ1もしくはタイプ2症例に対してはStemey法やRatz法などの膀胱頸部吊り上げ術が、尿道括約筋の機能障害などのタイプ3症例に対しては尿道周囲コラーゲン注入療法が行われてきたが、長期成績は決して満足できるものではない。今回我々は近年注目を集め優れた著効率を有すTVT sling術の治療成績を検討したので不成功例を含め報告を行う。

対象 対象患者は1999年3月から2001年3月までの間に近畿大学泌尿器科および関連病院において施行したTVT症例16例で年齢は43歳～79歳(平均60.9歳)であった。タイプ別の内訳はタイプ1が2例、タイプII aが3例、タイプII bが8例、タイプIIIが3例であった。ストレステストは施行した症例では全て陽性、ALPPは36～80、平均54.6 cm H₂Oであった。尿失禁手術の既往を有するのは1症例のみであった。

方法 麻酔は11例は局所麻酔下に、残り5例には脊椎麻酔または硬膜外麻酔を併用しTVTスリング術を施行した。結果は治療後の自覚症状、60分パッドテスト、最大尿流量、残尿量等のパラメーターで評価した。

結果 TVT手術の効果判定は腹圧性尿失禁が完全に消失したものを完全消失、激しい運動をしたときのみ少量の尿失禁を認めるものを改善、術前と比較し失禁量に変化のないものを不変、術前よりも増悪したものを悪化とした。その結果、14例中10例に完全消失、4例に改善を認め、不変、悪化を呈した症例は認めなかった。またこれらはタイプ別によらず有効であった。しかしTVT sling術施行後、排尿

困難や残尿量の増加が出現した症例が4例あった。これらを排尿困難や残尿量の増加が出現したため追加治療を要した症例群と追加治療不要群、A群、B群に分け比較、検討した。A群の内訳はタイプ1が1例、タイプII aが1例、タイプII bが2例であった。A群、B群を術前のパッドテスト、ALPP、麻酔方法、手術時期という項目ごとと比較した。術前のパッドテストにおいてはA群が平均75.3gとB群よりやや多かったが、ALPPはA群が平均63 cm H₂Oと高かったことよりA群が高度な腹圧性尿失禁を有する群とは評価できないと考えた。麻酔方法についてはB群では膣前壁補強術を同時に行う為、脊、硬麻を併用した症例を2例含んでいる。手術時期に関してはA群は1999年3月から同年10月までに施行されており、これらは全て治療開始初期症例であった。

考察 今回の検討ではTVT手術はタイプ別によらず全ての症例で尿禁制獲得に関し良好な成績を示した。しかし尿失禁は改善したが、術後、排尿困難、尿閉が出現しbougie, CICを要した症例も4症例あった。これらは全て治療初期の症例であり術後の尿禁制を意識するあまり尿道を過剰牽上してしまったこと、本来は中部尿道において支持すべきところを膀胱頸部よりにて支持してしまったこと等が原因と考えられる。こうしたことよりTVT手術は手術手技が比較的容易とされているがある程度の術者の習練や無張力に対する他覚的指標の確立が必要と考えられる。

16. 閉塞型睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) におけるCPAPとMAS

(下顎前進口腔スプリント) の治療比較

辻 文生 東田有智 村木正人 原口龍太 久保裕一

福岡正博 濱田 傑* 中島重徳**

近畿大学医学部第4内科学教室 *同医学部附属病院口腔外科 **同医学部奈良病院

対 象

OSASと診断された43名(男性34名、女性9名、平均年齢51.3歳)を以下の3群に分けた。

MASのみ施行群	11名
CPAPのみ施行群	26名
MASとCPAP施行群	6名

患 者 背 景

MAS群、CPAP群ともにBMIは27と差はなかったが、治療前のAHIに関してはMAS群の23.6に対してCPAP群は48とより重症なOSASが多かった。

方 法

EdenTrace II (簡易型睡眠時無呼吸診断装置)でAHIを測定した。Apneaはair flowが10秒以上止まったもので、Hypopneaはair flowが50%以上落ちた状態が10秒以上続き、酸素飽和度が4%落ちた時とした。CPAPの機器はグッドナイトを治療の前夜で導入し効果を判定した。MASに関しては、当院口腔外科にて作製した。また、AHI、酸素飽和度90

%以下の割合、平均酸素飽和度、Apnea, Hypopneaの数、Apnea, Hypopneaの時間を効果の指標とした。

結 果

- ① MAS群、およびCPAP群ともに治療前後において有意にAHIの改善が認められた。
- ② MAS群とCPAP群のAHIの改善率においても有意にCPAP群の改善率がよかった。
- ③ MAS及びCPAPともに施行した患者6名に対して検討した結果MAS、CPAPともに治療前に比べると有意に改善していたが、MASとCPAPの比較では有意差は認められなかった。しかしCPAPの方が良い傾向があった。

ま と め

CPAP、MASの治療によってSASは有意に改善が認められた。

MAS群とCPAP群ではCPAP群の方がより重症な患者背景であったが改善率は良かった。